

アツくておもしろい、若手農家が糸島で活躍中です! /

糸島の農業を元気に

若手ファーマーズの

古重カ

NO.92



糸島市井原
田中 祐作さん
(29)

糸島市井原の田中祐作さんを紹介します。



ハウスは奥行きが約70mあり、忙しい時期は1往復するのに1時間半ほどかかります。その間、この姿勢で収穫作業を行うため、疲労がたまります。



35馬力と31馬力のトラクター2台、コンバイン1台、田植機1台、消毒作業用に小型のトラクター1台を保有しています。もっと大きなトラクターも欲しいのですが、ハウスの作業にも使うため、この位の大きさにしています。

◆農業経営の内容を教えてください

両親と私と妻の4人で、イチゴ「博多あまおう」を29畝と米を4畝生産しています。主となる作物はイチゴで、2年前から作業を任せられるようになりました。

米は山田錦、夢つくし、ヒノヒカリ、WCSを生産しています。こちらは山田錦が主で、父が中心となって管理しています。

◆就農のきっかけは？

北海道の酪農学園大学の3年生の時、1年間休学して実家で農業を手伝いました。その時に、それまであやふやだった就農への決意が固まり、卒業後はすぐに就農しました。

◆就農して大変だったことは？

イチゴの栽培は土耕で行っているため、中腰での手作業が多く、2年前に腰を痛めました。以来、体調管理には気を付けています。

◆心掛けていることは？

毎年、気温の変化などで作業適期も変わってきますので、観察力を磨いて適期を見逃さないようにしたいと考えています。そして、効率的に作業できるよう、昨年の作業を見直し、作業工程などを組み立てています。

◆将来の抱負は？

将来的には、高設栽培や雇用を含む経営が必要になると考えています。他の生産者の方の経営をよく見て勉強したいと思います。

力いっぱいご飯を食べよう

JA青年部

JA青年部(三坂哲弥部長)は、お米をモチーフにした農業戦隊ヒーロー「コメンジャーショー」で市内の3つの保育園を訪問し、こどもたちに地産地消を伝えました。

「コメンジャー」とは「力いっぱいお米を食べて元気になるう」をテーマに、5人のヒーローが、お米の天敵であるカメムシ軍団に立ち向かうストーリー。

三坂部長は、「ご飯をしっかり食べて元気に過ごしてほしい。小さい時から地元産を食べ、この子たちが大人になっても糸島産を自然に食べてくれるように」と願いを込めました。



JA青年部員が暗渠を設置

JA青年部
普通作専門部

JA青年部普通作専門部(吉村翼専門部長)は、糸島市二丈波呂の吉村恵祐さんの水田で暗渠の設置作業を行い、部員24人が、保有する大型トラクターやボブキャット、パワーショベルで作業を行いました。

水田の排水を改良し、麦の安定生産を可能とするため、また部員自らの技術向上のために4年前から取り組んでいます。

さらに2年前から、糸島漁協の協力で、コスト削減のため牡蠣殻を碎石の代わりに使っており、碎石との排水量の比較調査も福岡普及指導センターと連携し進めています。



碎石代わりの牡蠣殻を敷き詰めるJA青年部員